教育支援センターだより

11月号　令和8年度　第8号
令和8年　11月18日発行（通算200号）

花かおり
緑あふれ
人輝くまち
こうのす



○ 教育相談事業
○ 適応指導教室事業
○ 特別支援教育事業
○ 研　修　事　業

鴻巣市立教育支援センター
〒369-0133　鴻巣市小谷1890番地1
TEL　048－569－3181
FAX　048－569－1773

祝　　辞

鴻巣市教育委員会教育長　齊藤　隆志

この度、記念すべき第２００号の「教育支援センターだより」が発行されますことを、心よりお祝い申し上げます。

鴻巣市立教育支援センター（LET'S）は、平成２２年（２０１０年）４月の開設以来、子どもたちの健やかな成長を願い、子どもたちや保護者、学校に寄り添いながら、教育相談や不登校児童生徒への支援、特別支援教育の推進、教職員研修の実施など、本市の教育を支える重要な役割を担ってまいりました。

また、「教育支援センターだより」は、センターの取組や子育てに関する有益な情報を発信し、市民の皆様と教育支援センターをつなぐ架け橋として、大きな役割を果たしてきました。創刊以来、発行を重ね、第２００号という大きな節目を迎えられましたことは、歴代職員の皆様をはじめ、関係者の皆様の熱意とたゆまぬご努力の賜物であり、深く敬意を表するものであります。

今後も、学校・家庭・地域及び関係機関との連携を一層深めながら、子どもたち一人一人の学びと成長を支える拠点として、その役割をさらに発揮されることを期待しております。

結びに、「教育支援センターだより」第２００号の発行を重ねてお祝い申し上げますとともに、教育支援センターのますますのご発展と、関係者の皆様のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げます。

子どもたちの笑顔

専門教育相談員　松田　光

子どもたちは純粋なだけに、心の動きが素直に顔に現れます。Let's教室を見学した日などは、緊張で顔がこわばっているように見えます。やがて通級を重ね、他の通級児童・生徒との触れ合いや指導員との会話を通して徐々に表情が柔らかくなります。教室に慣れ、活動の中で達成感を感じたり、幸福感の高まりを感じたりした時には最高の笑みがこぼれます。それぞれの笑顔には違いはありますが、遠慮気味であったり少々はにかんだような表情であっても、心和む空気が周りに広がりほんのりと温かな雰囲気を醸し出してくれます。

Let's教室の指導員をはじめとして、教育支援センターに勤務する職員は、子どもたちがリラックスし、満面の笑顔がはじけ、元気に生き生きと活動する姿を何より望んでいます。そして、職員以上にそれを強く願っているのが保護者の方々です。

Let's教室は、子どもたちの笑顔と元気を取り戻し、エネルギーを補給する場です。様々な体験の積み重ねで、心の疲れを開放し、自身の心を輝かせ、晴れ晴れとした素敵な表情が溢れる、そんな場にしたいと考えています。



10月の相談状況　517件

相談内訳

	R8. 10月	R8. 9月
相談員等の学校等への訪問	253	168
電話	151	99
相談者来所	113	108

主な相談者別内訳

未就学児	154	28
小・中教職員	122	107
小学生保護者	86	71
小学生	36	44
年長児保護者	28	31

主な相談内容

性格・行動	205	70
不登校	125	127
特別支援	54	67
就学	43	42
学業	32	14

11・12月の行事予定

月	日	曜	行　　事
11	4	水	Let's教室　グラウンドゴルフ（芝運動場）
	12	木	鴻巣市教育研究実践発表大会
	20	金	就学支援委員会④15:00
	26	木	まなびの教室　14:00
12	10	木	教育相談担当者・さわやか相談員等連絡会議②
	11	金	ウイング・ステップ担当者研修会③
	17	木	Let's教室　2学期終わりの会
	24	木	まなびの教室　14:00

Let's教室　～秋を満喫しました～



ハイキング 10/28(水)　グラウンドゴルフ 11/4(水)

シリーズ　0歳～15歳までの一貫した教育の推進
「センター設立時」と「現在」の学校

鴻巣市立教育支援センターが設立されたのは、平成22年（2010年）4月のことです。それまで小・中学校の教育を主管していた「学校教育課」を組織改編し、「学務課」と「学校支援課」の2課体制としたのに合わせて設置されました。その時から数えて今月は16年と8か月目を迎え、開設の年に生まれた子どもたちは既に高校生に成長しています。月数にするとちょうど200か月となり、毎月発行を続けてきた「教育支援センターだより」も、ここに記念すべき「第200号」をお届けすることができました。創刊号以来、発行にご協力いただいた関係の皆様に、心よりお礼申し上げます。

平成22年といえば、その後の生活に大きな教訓を残した東日本大震災が発生した前の年に当たります。記録をさかのぼってみると、小惑星探査機『はやぶさ』が奇跡的ともいえる7年ぶりの帰還を果たし、日本中が沸いたのもこの年でした。日々急激に社会状況が変化している現代ですが、学校はどのように移り変わっているでしょうか。センター設立当時と現在の鴻巣市内の小・中学校を比較してみます。

平成22年（2010年）→ 令和8年（2026年）　※各年とも5月1日現在

●児童・生徒数　9,633人 → 7,771人

子ども人口の減少は全国的な傾向であり、ここ数年の鴻巣市においては毎年100人を超える児童・生徒が減り続けています。ただし、平成20年代から令和にかけて通常学級の他に特別支援学級を設置する学校が増え、特別支援学級に通う児童・生徒数は増加しています（59人→196人）。埼玉県全体でも、直近の10年で特別支援学級に在籍する児童・生徒数は2倍以上に増えています。

●学級数　328学級 → 312学級

児童・生徒数の減少に加え近年小学校3校が閉校し、市全体として学級数は少なくなっています。その一方で、特別支援学級の設置が年々進んだこと（13学級→46学級）、さらに通常学級に35人学級が段階的に導入されたことにより、減少カーブは児童・生徒数に比べて緩やかです。なお、普段在籍する学級を一時離れて学ぶ通級指導教室（ウイング・ステップ・ことばの教室）は、ここには含まれていません。

●教職員数　610人 → 610人（非常勤講師等の短時間勤務者を除いた本務者のみ）

奇しくも学校基本調査には、両年とも同じ教職員数が計上されています。原則的には学級数に応じて教員の数が決まりますから、学級数の減少は教員数の減少に直結し、この期間内には580人台に減ったこともありました。しかし、国や県の施策として様々な加配措置が講じられ、今年度は校内教育支援センター（With）推進のための教員も配置されています。

一般には、教職員が増えれば一人一人の児童・生徒に目が届きやすくなり、それぞれの教育的ニーズに合わせた支援が行えると考えられます。そこで鴻巣市では様々な市費負担職員を各校に配置し、きめ細かな教育に努めています。センター設立の頃と比べて、特に充実が図られている代表的な例をいくつか挙げてみます。

➡いきいき先生・特別支援教育指導員の増員
➡市費学校事務員の全校配置
➡学力向上支援員・理科支援員の配置



＜参考＞「学校基本調査」
「統計こうのす」
「鴻巣の教育」